



中部地域のホンモノ体験

ヒアリング調査先コンテンツ集

**Research Note of Artisan destinations
In Central Japan**

はじめに

調査先コンテンツ集の位置付け

時代と共に市場規模が縮小しつつある各産地の職人や作家、担い手が支えるものづくり産業は、日本人のライフスタイルの変化などを背景に、製品や作品の需要減にさらされています。生産者と消費者をつなぐ問屋の廃業などバリューチェーンも崩壊しつつあり、産地・産業として危機に瀕しています。

この資料は、経済産業省中部経済産業局が推進する中部地域のものづくり産業における"ホンモノ体験"とその観光活用について、基礎調査で実施した産地のヒアリング結果を取りまとめたものです。

各産地の「ものづくり」と「まち」そして観光とのあるべき関係性、そして関係性を高めていく上で鍵となる、ものづくりや地域資源の高付加価値化を"ホンモノ体験"と位置付け、過渡期にある潜在的な産地を含め、発信していきます。

また、令和6年(2024年)1月に発生した能登半島地震で被災した地元のものづくり産業とまちの復旧復興の一助とするとともに、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)における人流の拡大を、携わるみなさんと一緒に、ものづくり自体の伝承と産地の再活性に繋げていきたいと思います。

ホンモノ体験とは

旅を人生の大切な時を過ごすパートナーとして位置づける人々が、産地のものづくり職人や作家、担い手との交流や実技、その世界観をリアルに経験することを通じ、自身にとっての己事究明、それぞれの生き方に問いかけてくる繋がりと影響力、将来の選択肢を増やすような、精神的価値を提供する、時間消費型コンテンツを指します。

観光活用により産地に効果が着地し、観光から得た収益をものづくり産業と町並みや景観の維持、発展に再投資され循環することで、産地として豊かで魅力ある目的地(Artisan destinations)であることもホンモノ体験が目指す持続的なまちの姿と考えています。

活用方法

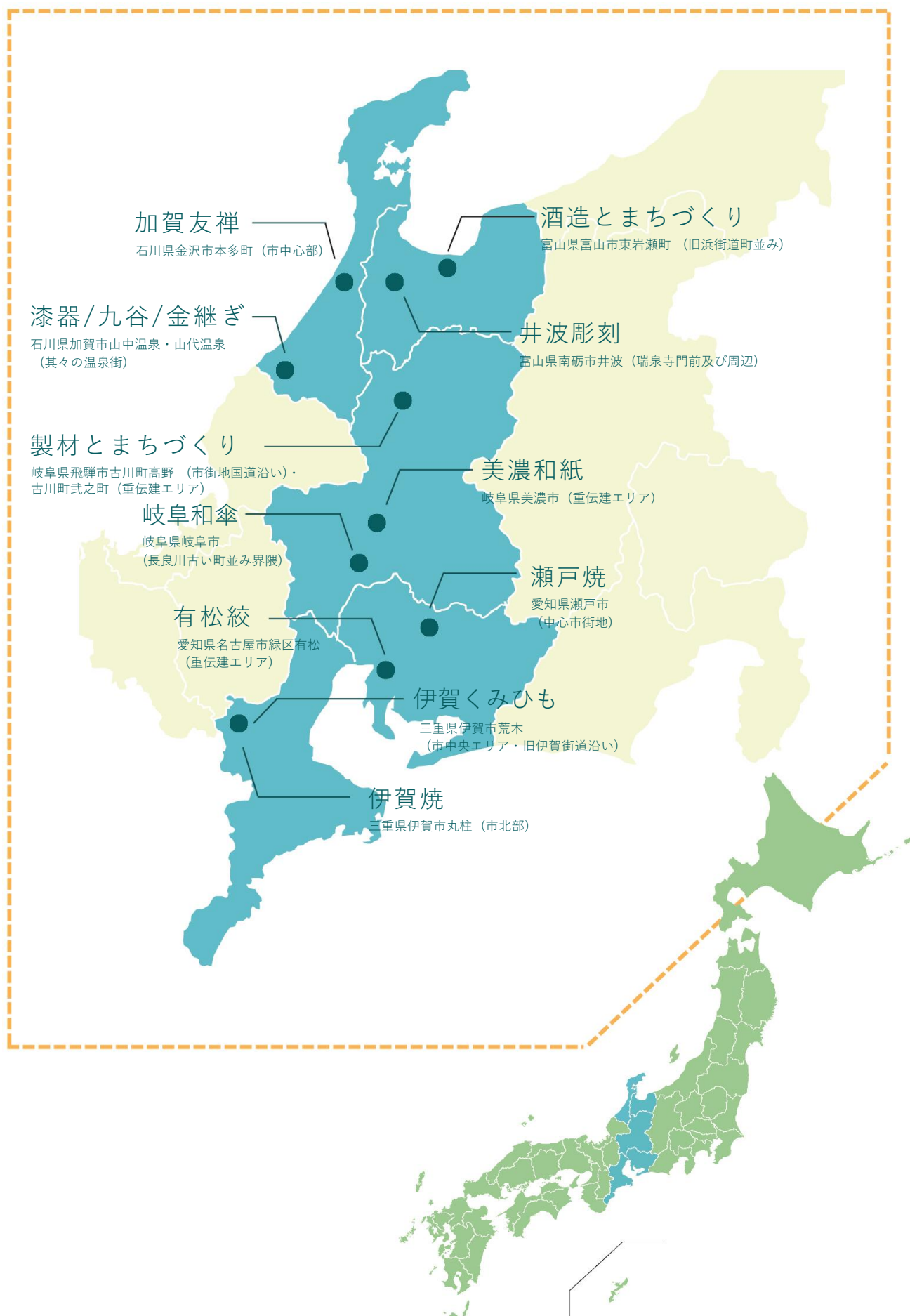
- ① 訪日客等に向け旅行企画や手配コーディネート、トラベルデザインを担う方、富裕層などラグジュアリー市場の顧客を持つ宿泊や飲食事業者の方、ライフスタイルコンシェルジュやまちづくりのプロデュースをする方などが、中部地域の立地特性を生かして、今後の顧客への提案に活用頂くこと。
- ② 昔からのものづくり産業を地域に持ち、観光を活用してそれら産業とまちの再活性を企図している関係者の方々に、現状と機会、今後の取組みの参考として頂くこと。
- ③ 中部地域で、自分にとっての、オンリーワンのものづくりを見つけ、ご自身の日常生活やライフスタイルに少し取り入れ、観光をきっかけに産地のファンになるような新しい地域と関係性に関心のある方等が、各産地を知るきっかけとして頂くこと。

コンテンツ一覧

産地または、コンテンツに関連する地域

01. 有松絞 愛知県名古屋市緑区有松
(重伝建エリア)
02. 瀬戸焼 愛知県瀬戸市
(中心市街地)
03. 岐阜和傘 岐阜県岐阜市
(長良川古い町並み界隈)
04. 美濃和紙 岐阜県美濃市
(重伝建エリア)
05. 製材とまちづくり 岐阜県飛騨市古川町高野(市街地国道沿い)・
古川町式之町(重伝建エリア)
06. 伊賀くみひも 三重県伊賀市荒木
(市中央エリア・旧伊賀街道沿い)
07. 伊賀焼 三重県伊賀市丸柱
(市北部)
08. 井波彫刻 富山県南砺市井波
(瑞泉寺門前及び周辺)
09. 酒造とまちづくり 富山県富山市東岩瀬町
(旧浜街道町並み)
10. 加賀友禅 石川県金沢市本多町
(市中心部)
11. 漆器/九谷/金継ぎ 石川県加賀市
(其々の温泉街)

ホンモノ体験調査コンテンツマップ





有松絞

愛知県名古屋市緑区有松
(重伝建エリア)



もの・作り手に関すること

有松・鳴海絞は400年の歴史を持ち、有松のまち並みは東海道約800mに沿って建ち並び、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、まち並みに溶け込むように、商家を改装したカフェやレストランも増えつつある。商家改装のゲストハウスもある。江戸期に尾張藩により産地は長く守られてきたが、着物や浴衣を製造する事業者で、現在も残るのは5軒程度。図案→型彫り→絵刷り→くぐり→染色→糸抜き→仕上げ各工程に技術者がおり分業制で行われている。

欧州の服飾デザイナーとコラボする歴史ある工房の職人や、素材である木綿生地 of 産地と有松を結ぶコットンロード（木綿の道）として、面的にブランディングを図る仕掛け人など、新旧、東西が交錯し、新しい価値を生み出そうとしている。

体験やイベント、受入れに関すること

「コットンロードから始まる有松絞400年の旅」有松の原材料の木綿は、古くから知多産の白生地が用いられた。とりわけ木綿の生産・集積地であった知多市岡田地区は、有松とは深いつながりをもっていた。また生地の晒しは伊勢や松阪で、製品の販売先は主に江戸（東京）という販路である。こうした歴史を再編集し、新たな付加価値の高い製品や旅を創出しようという試みである。ハイポテンシャルな体験滞在を求める人々に、産地の各職人とその工程を繋ぐのが、古民家を再生してゲストハウス「MADO」を営む大島さん夫妻である。彼のもとにはこうした新しい試みや、異分野の若手事業者が集い、新たな仕掛けを次々と試みている。

2019年に「日本遺産」に認定され、江戸時代からの歴史的なまち並みが今なお残っているなかで、利用度の低い古民家も増している。行政と民間が協力して、地域の現状と課題を理解し、地域資源の保存活用、地域を担う創発人材の育成、土地に根付いた生業の形成によって、地域を主体とした観光や交流を促すとともに、地域創生と暮らしや文化の継承を実現することを目指す動きも始まっている。

Access

[しぼりの宿MADO]

愛知県名古屋市緑区有松924

[有松・鳴海絞会館]

愛知県名古屋市緑区有松3008

東海道新幹線 名古屋駅から車30分、名鉄名古屋本線 有松駅から徒歩5分

Information & Contact

ツーリズムデザイナーズ

<https://tourismdesigners.com/>

名古屋伝統産業協会

<https://nagoya-dentousangyou.com/>



瀬戸焼

愛知県瀬戸市
(中心市街地)



もの・作り手に関すること

同じ愛知県の常滑や他国内のやきもの産地と並び、瀬戸は「日本六古窯」に含まれ、縄文から続いた世界に誇る日本古来の技術を継承している。うつわの代名詞にまでなった「せともの」の産地の実力と歴史を評する上で、瀬戸ほど、多種多様な焼き物が焼かれる産地はないとも言われている。

地元で採れる粘土は天然の資源物が1000年かけて堆積していくもので、この貴重な土を大切に使うことをコンセプトとした陶芸体験ショップが、市民が集う地元の商店街に生まれた。また、干支置物や招き猫などの縁起物を作り続けてきた陶磁器工芸メーカーのギャラリー兼工房には、京都で茶の湯文化を体験した多くの欧米系の方が、日帰りでこの瀬戸に立ち寄り体験されていく。

体験やイベント、受入れに関すること

陶磁器業界全体が盛り上がらないと、瀬戸だけが一人勝ちは絶対ない。成功事例が全国にあって、日本全体が陶磁器産地で盛り上がっていく。それを例えば、繊維産業の人たちも真似してくれるとか、そうっていけば面白くなっていく、と中外陶園/STUDIO 894の代表鈴木さんは語る。昨年に体験の受入を拡充する新施設をオープンした。こだわりは、どんなにかっこいいホームページや、インスタグラムをやっている、ものづくりの価値自体は伝わらない。お客さんに実際に体験してもらったらわかるのではないかな。体験施設に足を運んでもらい、自分たちのノウハウを理解してもらい、職人さんはすごい、自分たちにはできないところに価値があると思ってもらえたら、日々の食器にもより価値（価格）を置く。

日常の生活に素敵な陶磁器を使う、という選択肢が今の日本の生活には無いので、まずは選択肢を持ってもらうことを目指す。加えて、訪日客の受入や取り寄せ、現地旅行会社とのネットワークづくりなど産地と自社の伝統の生き残りのために地道に取り組んでいる。

Access

[CONERU NENDO shop & space]

愛知県瀬戸市朝日町28

[STUDIO 894]

愛知県瀬戸市薬師町1

[瀬戸蔵]

愛知県瀬戸市蔵所町1-1

東海道新幹線 名古屋駅から車40分、名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅から徒歩5分

Information & Contact

瀬戸市観光課

瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会

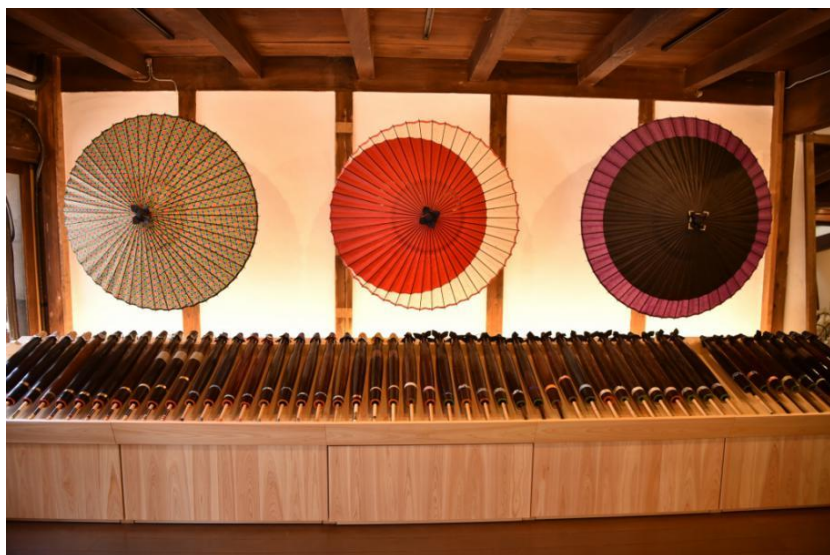
<http://www.seto-marutto.info/>

瀬戸焼振興協会HP

<https://www.setoyakishinkokyokai.jp/>

瀬戸蔵ミュージアムPR動画

<https://www.youtube.com/watch?v=sG2qLjitPww>



岐阜和傘

岐阜県岐阜市
(長良川古い町並み界隈)



もの・作り手に関すること

江戸時代に武士の内職として奨励され、岐阜の和傘作りが盛んになった。岐阜市を流れる長良川流域に和紙や竹、荏胡麻油などの良質な材料が豊富だったことから地場産業として発展してきた。普段使いされる蛇の目傘や番傘、日傘、そして歌舞伎などに使われる舞踊傘、祭事や神事のための野点傘や差掛け傘など、多種多様な和傘が生産されている。岐阜市の川原町と呼ばれる古い町並みが残るエリアに、長良川流域の伝統的な物産や地域資源のブランディング、販路開拓を仕掛ける拠点「てしごと町家CASA」がある。観光地域づくり法人(DMO)認定を受けているNPO法人ORGANが運営しており、和傘の糸かがり体験などの産業観光コンテンツの企画・提供なども行う。また、この町家内には同じくORGANが運営する唯一の岐阜和傘専門店「和傘CASA」がある。販売のみならず作り手のストーリーを伝えることを大事にしている。岐阜は日本の和傘生産シェア1位ではあるが、担い手不足などの課題を抱えている。これらの課題解決にむけ岐阜和傘の魅力を発信し続けている。

体験やイベント、受入れに関すること

ORGAN理事長の蒲さんは観光の商流を活用し、ものづくりやその体験を付加価値化し、地域に人を呼び寄せる。ORGANは岐阜和傘の産業振興以外にも、旅行商品の企画販売、まち歩きガイド派遣、アンティーク着物レンタル、伝統的な町家活用などを実施している。長良川の鵜飼と芸舞妓との宴席を楽しむ船遊びや長良川上流の関市での刀剣買い付けツアーなども企画販売している。関市では実際に刀匠のもとを訪れ、包丁の試し切りなども体験し、自身が気に入った包丁や刃物商品を購入することができる。これからの訪日インバウンド市場を見据えた高付加価値なツアーパッケージである。

観光をひとつの手段として、長良川流域文化のひとつである伝統工芸品の販路拡大へむけた取り組みを続けている。観光により、この地域の文化への認知度が向上する。それによって販路が拡大し、新たな市場を形成することで、職人の事業規模も拡大する。職人の事業収益が増えれば次世代の担い手を育成することができ、これからも技術を継承することができる。地域のアイデンティティとしての長良川流域文化を絶やさぬよう、さまざまなアプローチで活動が続いている。

Access

【長良川てしごと町家CASA】
岐阜県岐阜市湊町29

【長良川デパート】
岐阜県岐阜市湊町45

東海道新幹線 名古屋駅から車で60分、
JR・名鉄 岐阜駅から車で10分

Information & Contact

(公財) 岐阜観光コンベンション協会
<https://www.gifucvb.or.jp/sightseeing.php>

岐阜市観光コンベンション課
<https://www.city.gifu.lg.jp/kankoubunka/kankou/index.html>



美濃和紙

岐阜県美濃市
(重伝建エリア)



もの・作り手に関すること

岐阜県美濃市は「美濃和紙」と「うだつの上がる町並み（重要伝統的建造物群保存地区）」で知られる。コロナ禍の副産物で、認知度が広がったワーケーションなど新しい生活スタイルと、美濃和紙のまちと産業の再生のため、地元製紙会社の若手社長が和紙と交流観光を軸とした、地域活性化を開始した。分散型ホテル方式によるまちづくりとコワーキング施設を、地元の官民金が手を取り立ち上げた。暮らすことと滞在することはボーダレスな時流を見据え、地域住民の観光への理解を促している。そのまちに住む人、美濃和紙など生業の担い手がまちを体現し、暮らすように滞在する体験を来訪客に提供している。

体験やイベント、受入れに関すること

丸重製紙の代表 辻さんは本業の製紙業の未来を案じ、SPAモデルを参考に紙製品の企画、情報発信、問屋に頼らない流通を一気通貫することで、美濃和紙産業全体の再生を目指している。和紙職人個々人の特徴や個性を、まちづくりの一環で整備した直販店舗（washinary、名称はワイナリーから援用）で展開するギャラリーは、対消費者だけでなく、和紙を材料とする施工工務店やデザイナーなど対事業者向け販路獲得にも繋げている。町人文化をテーマに、地元行政が所有していた低利用の日本建築の古民家2棟の利用権を取得し、分散型ホテルとしてリノベーション。ホテルの顧客ターゲットは、滞在の消費性向の高い層でなおかつ和紙の地域文化を好む層とし、外国人比率約2割で年々上がっている。

一般の文具店や量販店では味わえない和紙の世界をギャラリーとショップで再現し、和紙のデザイン性を好む層を中心にリピート客が増えている。古民家再生をきっかけに、美濃和紙の価値向上に繋がり、ゆっくりではあるが、地元職人の生産する和紙売上は伸長し続けている。また、美濃和紙の対個人間スモールビジネスでの新しい需要拡大にも挑戦している（自分で買い自分で売る対個人ビジネス）。

Access

[NIPPONIA美濃商家町]
岐阜県美濃市本住町1912-1

[美濃和紙の里会館]
岐阜県美濃市蔵生1851-3

[観光案内所 番屋]
岐阜県美濃市加治屋町1959-1

東海道新幹線 名古屋駅から車で60分、長良川
鉄道 梅山駅から徒歩10分

Information & Contact

一般社団法人 美濃市観光協会
<https://minokanko.com/>

美濃和紙の里会館
<https://www.city.mino.gifu.jp/minogami>

美濃市観光協会 YouTube
<https://www.youtube.com/@user-zt1tu8fk3w/videos>



製材とまちづくり

岐阜県飛騨市古川町高野
(市街地国道沿い)・
古川町式之町(重伝建エリア)



もの・作り手に関すること

飛騨市は面積の93%が森林で、そのうち広葉樹の割合が68%を占めており、径が細いことが特徴である。そのことから安定供給ができず、家具などの大量生産に向かないため、今まではチップとして価値が低い使われ方をしてきた。豊富な地域資源である広葉樹に新たな価値を生み出そうと、古川町の古い町並みにある、ヒダクマが提供するの「森を起点としたものづくり」。消費者が作りたいものではなく、森の事情に合わせたものづくりをしようと建築家やデザイナー・企業に提案。森を知ってもらうために森や製材所へ案内するプログラムは、地域の人々との対話を重視したもので特別な体験となる。現代は、モノづくりが合理化され、お客様との距離が遠い時代。加えて、安全性の観点からトレーサビリティの確保が求められる中、飛騨古川では地域の自然・文化に根ざした循環を感じられる。

体験やイベント、受入れに関すること

FabCafe Hidaは、デジタルものづくりカフェである。運営するヒダクマが関わることで、BtoB、BtoCも含めた地域・国内外の人たちを巻き込み、ものづくりや地域のコミュニティの持つ魅力を発信し、交流を促進する。拠点は、古い町並みの中にあり、レーザーカッターや3Dプリンタでものづくりができるラボ機能のほか、森の恵みを活かしたメニューを提供するカフェ、滞在製作ができるゲストハウスや木工房がある。ものづくり体験で一番人気なのは箸作りで、多様な飛騨の広葉樹から、好きな樹種を選び、鉋で削ってつくる。楽しくものづくりに触れることで、身近に森を感じてもらうプログラムである。

いつも食べている野菜や木との関係、木のことを身近に感じてもらい、それらがどう循環しているのかということを伝えながら体験を実施している。他にも、地域の製材業や家具の職人、国内外から訪れる建築家やデザイナーがコラボして、広葉樹の活用策やプロジェクトを展開していくための拠点となるオフィスもある。年間を通じて、さまざまなイベントやワークショップ、勉強会を実施している。

Access

[FabCafe Hida]

岐阜県飛騨市 古川町式之町6-17

[飛騨の匠文化館]

岐阜県飛騨市古川町壺之町10-1

[飛騨古川まつり会館]

岐阜県飛騨市古川町壺之町14-5

JR高山本線 飛騨古川駅から徒歩5分

Information & Contact

一般社団法人飛騨市観光協会

<https://www.hida-tourism.com/>

飛騨市役所まちづくり観光課

<https://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/15/>

飛騨市広葉樹のまちづくり

<https://hidatsumu.com/>



伊賀くみひも

三重県伊賀市荒木
(市中央エリア・旧伊賀街道沿い)



もの・作り手に関すること

大ヒットしたアニメ映画「君の名は。」で、伊賀組紐を連想させる組紐が登場し、注目が集まった。三重県の伝統的工艺品で、生糸絹糸や金銀糸などを組み糸に使い、角台、丸台、高台、綾竹台などの伝統的な組台で繊細な紐に組み上げたもの。組紐は伊賀人の気質にも合っていたとも言われ、もともと組紐の技術は公開されるものではなく、門外不出の柄がある工房もあると言われる。忍者の里として知られる伊賀には秘密を厳守する地域性があり、そんな組紐の文化とマッチした。

職人の父親と若い兄弟で営む組紐店の店舗と工房では、「高台」「丸台」「綾竹台」「角台」による組み加工・機械組の現場、今では希少な「足踏み綾竹台」「内記台」などの特殊台も見ることができる。

体験やイベント、受入れに関すること

松島組紐店店主の松島さんは、和装品の帯締めをそのままの状態でも海外に販売をしていき、その使い方を変えて海外に出していく。海外だけでなく世代別に着物を着ない人に対してもなんとか使っていただくよう動いている。

着物を着る人には、使い方を変えるという概念がなく、作り手側にもその概念はない。海外へ持っていくからと言って、無理やり何か使い方を変えるということを定着させるのは難しいと考えている。だから、そこに意識を持たないようにしている。

本当に組紐を作りたくて来る方とそうでない人も両方受け入れている。その差がとても大きく、最初の体験は1時間くらいでできるが、レベルが高くなると時間も長くなっていく。

体験で作るのは、ブレスレットなどのアクセサリ関係だが、そこから踏み込んで高度な組紐にすることもできる。

工房はショップも兼ねており、一角で組紐の小物、各種帯メを販売。店舗及び体験教室は、すべて予約制となっている。

Access

【くみひもstudio荒木／松島組紐店】

三重県伊賀市荒木160

近鉄大阪線名張駅又伊賀神戸駅から車で30分、
伊賀鉄道 上野市駅から車で10分

【伊賀伝統伝承館 伊賀くみひも組匠の里】

三重県伊賀市上野丸之内116-2

名阪国道中瀬インターから5分、伊賀鉄道上野市駅から徒歩10分

Information & Contact

伊賀上野DMO

<https://www.iga-guide.com/>

伊賀市商工労働課商工振興係

<https://www.city.iga.lg.jp/>



伊賀焼

三重県伊賀市丸柱（市北部）



もの・作り手に関すること

伊賀焼の産地は、400万年前の古琵琶湖層の土であり、高い温度で長い時間焼かないと陶器にならない素材なため、それだけ耐火性が高く、非常に土鍋づくりに適している。「土鍋を囲むという日本の食文化」が薄れていくことを危惧し、美味しく楽しく出来る道具「土鍋」をコンセプトに発信を続けている。多くの方が土鍋文化に共感し、素材である土や作り方に興味を持ち、この地に足を運んでいる。

体験やイベント、受入れに関すること

長谷園の代表 長谷さんは、今まで年間5万人の来訪客を受け入れてきた。5月のイベントでは約3万人が訪れ、訪日客は京都方面からが多くなってきている。東京の恵比寿に店舗を構えており、こちらも全世界からの訪日客で大変人気となっており、専属スタッフで対応している。

輸出売上の40%はアメリカで、日本食ブームの相乗効果だと言える。日本食には長谷さんの土鍋がいい、と土鍋と食材の相性をわかったうえで購入してくれている。コロナ後は商品の出荷が増え、個人の注文が多いことから、それだけ土鍋と日本食文化の見直しが国内でも浸透しつつあるといえる。

訪日の富裕層ツアーでは、土の話から、普段公開しない屋敷にも入ってもらい、お抹茶、伊賀のお菓子、菓子皿も持ち帰りのプログラムにしており、ふらっと立寄りのお客様と差別化している。プロの和食料理人を呼んで、当社の道具で創作料理を作ってもらい提供したら大変評判がよかった。

使用するプロや海外の方などの第三者によって、商品の口コミ宣伝をしてもらうことに、手応えを感じている。体験自体に加えて、「日本食文化」「地域のものづくり文化」の発信拠点としても、楽しめる場所である。

Access

〔長谷園〕

三重県伊賀市丸柱569

〔伊賀焼伝統産業会館〕

三重県伊賀市丸柱169-2

東海道新幹線 名古屋駅から車で80分、京都駅から車70分、JR草津線 柘植駅から車で20分

Information & Contact

伊賀上野DMO

<https://www.iga-guide.com/>

伊賀市商工労働課商工振興係

<https://www.city.iga.lg.jp/>



©Kosuke Mae

井波彫刻

富山県南砺市井波
(瑞泉寺門前及び周辺)



もの・作り手に関すること

南砺市の旧井波町は、人口約8000人に対して約200人もの木彫り職人がいるといわれる日本一の木彫りの町で、その産業と町並みが日本遺産の認定を受けている。瑞泉寺から伸びる八日町通りの石畳は、工房が軒を連ね、木の香りや彫刻作品、そして道具を使う音も楽しめる。その町で、地域住民や木彫職人など事業パートナーとの強い関係性を構築し、職人と交流できる分散型ホテルとして、サービス高付加価値化を図っている画期的な観光モデルがある。元々、自宅の一部を改装して始め、オープン当初から欧米人を中心とする訪日外国人が多く訪れ、メディアの注目を集めた。また、コロナ禍でインバウンドが止まった中でも、売上を伸ばした。

体験やイベント、受入れに関すること

代表の山川さんは建築家であり、井波に移住し、若手の彫刻師たちの井波彫刻の認知低迷についての悩みを聞く中から、消費者に工房に来てもらうことの重要性に気づいた。宿とクラフト体験を組み合わせるアイデアを自宅空きスペースを使って実践したことにはじまる。同じ頃、山川氏が地域の空き家活用や観光のあり方などに対して課題を感じていたことも影響している。団体旅行の時代から、井波地域を改めてリセット、再定義し、地元の期待の声や課題にしっかり向き合い事業構想した。「職人に弟子入りできる宿」をコンセプトとした。彫刻、漆芸、陶芸等の地元の職人を作家に迎え、1棟につき1作家が宿の設計段階から関わりオリジナルの作品を制作し提供する。

山川さんはその作品を生かすよう間取りや内装を設計するため、各作家のギャラリーのような空間となっている。宿泊者は職人の工房で3時間程のクラフト体験を行うことができるほか、室内の作品や調度品を購入することもできる。この作家と宿泊者をつなぐしくみを「マイギャラリー制度」といい、ハード・ソフト両面でこのサービス（Bed and Craft）の独自性をつくり出している。利用者は、欧米圏の方が多く、また、とくにデザイナーや映像作家等クリエイティブ系職も多い。彫刻師は彼らとオン交流を通じ、自身の技術を再認識したり、彫刻師としての将来展望を強くする方もいるという。

Access

〔八日町通り〕

富山県南砺市井波

〔Bed and Craft〕

富山県南砺市本町3-41

〔井波交通広場観光案内所〕

富山県南砺市山見956-1

北陸新幹線 新高岡駅から車で40分、JR城端線 福光駅から車で20分

Information & Contact

南砺市観光協会

<https://www.tabi-nanto.jp/>

南砺市交流観光まちづくり課

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/kanko/index.jsp>



酒造と職人とまちづくり

富山県富山市東岩瀬町
(旧浜街道町並み)



もの・作り手に関すること

北前船が寄港していた江戸時代の雰囲気を残した富山市岩瀬は、北陸を代表する銘酒「満寿泉（ますいずみ）」の蔵元がある。現当主が、海外経験を経て地元に戻ると、街の衰退と人口減少が進んでおり、それを憂いた。酒と食材、そして地域文化を活かした西欧のワイナリーのスタイルに、人ともものが行きかうまちの再生の着想を重ねた。2000年代初めに、古い歴史的な空家をリノベーションし始め、まちを発信し始めた。ものづくりに対するゆるぎない信念で酒造りに取り組み、世界中の美酒と美食を知り尽くす。多様な人脈から、各分野の若い実力派の作家やアーティストをまちに呼び込みながら、岩瀬から世界を見据えている。

体験やイベント、受入れに関すること

榊田酒造店 当主の榊田さんのまちづくりの熱意と人柄は、広い人脈で繋がる職人や作家、料理人を岩瀬に呼び込んだ。ガラス作家、陶芸家、漆作家、そして井波の木彫刻家などである。そして、美食を作り出す各地の料理人が、彼らの作品（食器など）を求め、岩瀬を訪れる。全国的美食家は、日本料理やフレンチやイタリアン、蕎麦や寿司など、岩瀬で腕を振るう料理人の店に通う。職人同士、来訪客とが作品や料理を通して交流し、岩瀬のまちを器等の作品と共に、全国と世界に発信している。酒造が媒介となり、まちと人を繋ぎ、まちの付加価値を高めている。

榊田さんは一般的な観光客を呼び込むことはせず、イベントもやらない。土地の恵み、酒、生業、暮らし、これらがまちの本物の文化として評価されることで、それを求めて新たな人が己事と岩瀬にやってくる。

まちづくりに取り組み始めて四半世紀が経ち、榊田さんは町に泊まる機能が欲しいと考えている。見事に岩瀬が再生し、美しく蘇ったまち並みを、更にパワーアップさせようとしている。酒蔵の見学は出来ないが、利き酒専用の施設で受入れしている。廻船問屋群という地域資源を見つめ直し、職人や作家と来訪客の物心の交流を通じて、暮らしをまちを持続的に豊かにすべく、まちづくりを進めている。

Access

〔北前船廻船問屋 森家*〕

富山県富山市東岩瀬町108

*震災の影響で臨時休館している場合があります

〔榊田酒造店 沙石〕

富山県富山市岩瀬大町93

北陸新幹線 富山駅から車で20分、富山港線 東岩瀬駅から徒歩10分

Information & Contact

富山県地方創生局観光振興室

<https://www.pref.toyama.jp/miryokukankou/kankoutokusan/index.html>

とやま観光推進機構

<https://www.info-toyama.com/>



加賀友禪

石川県金沢市本多町(市中心部)



もの・作り手に関すること

加賀五彩と呼ばれる藍・臙脂・黄土・草・古代紫を基調とした落ち着いた色合いや、写實的に描いた草花をモチーフとする絵画調の模様が特徴。着物全体の産業が縮小下にあり、加賀友禪も例外ではない。各作家や業界の関係者の創意工夫で、職人を新たに目指す方も現れている。

金沢市の友禪作家の毎田さんは、400年の伝統を守りながら、新たな意匠を生かした作品づくりや商品開発に力を入れている。そのひとつが、建築用の高付加価値なガラス内装材である。2枚のガラスの間に、友禪と同じ技法で染めた生地を入れたものである。建築業界（設計事務所や住宅メーカー等）を通じて、徐々に浸透し、国内外の施主の方が下見や打合せで工房を訪れるようになってきている。また、訪日富裕層の方が友禪の体験をきっかけに、ガラスを注文し購入することもある。2年前には、イギリスの3都市で、講演と展示を行うなど、日本そして金沢の文化の発信、加えて新市場への挑戦者として、海外にも精力的に発信をしている。

自所は工房なのでスタッフ全員が職人である。営業も接客担当もいないため、観光客向け施設として全面的に出すことは無い。可能な範囲で、富裕層の体験の受入れをしながら、加賀友禪を未来へ繋いでいる。

体験やイベント、受入れに関すること

工房で訪日客を受け入れ始めたのは、北陸新幹線金沢開業の少し前からで、最初は、富裕層の方に需要があるとは思わなかった。訪日の方は、加賀友禪の鑑賞や購入だけにとどまらず、づくり手との対話においてさらに興味と理解を深めることに大変意欲的だと感じている。

訪れる外国人は、フランス、イタリア、米国など欧米からの訪問者が多く、彼らも今の日本で着物を着る機会が減っているのは知ってる。だから、この加賀友禪の文化をどう生かしていくのかに関心があり、自分ごとのように感じていることがうかがえる。着ていたもの（着物）を脱いで、それを掛けた風景もアートになる、そういう生活文化的な用途も日本に昔からあり、それを生の作家と職人が、工房で創作し作業しているリアルさに訪日客の心は動き、ホンモノの体験と価値を共感していただいている。

Access

【毎田染画工芸】

石川県金沢市本多町3-9-19

【加賀友禪会館、西田家庭園玉泉園】

石川県金沢市小將町8-8

北陸新幹線 金沢駅から車で10分

Information & Contact

一般社団法人 金沢市観光協会

<https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp>

金沢市観光政策課

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp>

加賀友禪 プロモーション動画

<https://www.youtube.com/watch?v=dvYhPGiULx0>



漆器/九谷/金継ぎ

石川県加賀市山中温泉・山代温泉
(其々の温泉街)



もの・作り手に関すること

加賀市の山代温泉、山中温泉、片山津温泉を総称し、加賀温泉郷が形成されている。中部地域を代表する温泉観光地である。そして、九谷焼、山中漆器のふたつの国指定の伝統工芸が古くから地元で栄え、日本料理の文化も育んできた。その分業工程の職人が破損した器を漆で継ぎ修繕し、一つのものを長く使い続けている。その習慣が、国内だけでなく海外からも注目を集めている。製陶、木挽、塗り、旅館や料理店が互いに傍にあることで、ものを作ったら終わりではなく、日々の生業や暮らしのなかで、ものの価値を循環させるひとつのエコシステムと言える。

体験やイベント、受入れに関すること

加賀市には、九谷焼窯跡展示館など、九谷焼を体験できる施設が複数あり、初心者向けの受入から、職人が使う道具を使うところなど、特徴は様々。また、山中漆器伝統産業会館や、漆器の木挽や塗りの工房で体験受入する拠点も何軒かある。

基本的に個人の作家や職人の作業場は生活拠点でもあり、普段は受入れしていないことが多い。ただ、泊まる旅館等の企画で、漆器の工程を見る職人見学ツアーなども時期限定で実施している。高価な器や作品を求める富裕層は、高付加価値な旅館の客層と通じる部分があり、宿側からの相互送客も行われ、ものを起点に加賀温泉郷が一体となって来訪客の呼び込みと滞在価値の向上を図っている。

地元の料理店や温泉旅館では、九谷焼や山中漆器を食事を使用するところや、伝産品そのものをテーマにした客室やコーナーを開発する施設もある。料理人から話を聞き、その器で食事ができることも、産地だからこそできる固有の体験である。

割れたり欠けた器や作品を継ぐ工程は、それ単独で注目される機会は少なかった。現在、海外から、繋ぐことを大切にする日本の精神性に注目が集まっている。ものの再生だけでなく、融和による、新しい価値の創造を表現するものとされる。

令和6年1月の能登半島地震で加賀温泉郷は、被災した方々の二次避難を積極的に受入れしてきた。共助の精神は、2つの伝統工芸を継承してきた、持続と循環の精神に通じるところがあるのかもしれない。同3月に加賀温泉駅が開業し、体験受入れを含む、駅前の賑わいづくりも、計画されている。

Access

[山中うるし座・山中漆器伝統産業会館]
石川県加賀市山中温泉西桂木町ト5-1

[九谷焼窯跡展示館]
石川県加賀市山代温泉19-101番地9

[片山津温泉インフォメーションセンター]
石川県加賀市片山津温泉乙38-3

北陸新幹線 加賀温泉駅から車で10～20分

Information & Contact

片山津温泉観光協会
<https://www.katayamazumi-spa.or.jp/>

山中温泉観光協会
<https://www.yamanaka-spa.or.jp/association>

山代温泉観光協会
<https://yamashiro-spa.or.jp/>

加賀市観光交流機構
<https://www.tabimati.net/index.html>

経済産業省 地域産業資源活用事業計画認定事業者一覧に掲載されている事業者から選定

No. 産地・企業	企業名・URL	地域資源	事業概要	拠点所在地
01-01	ヘルメス株式会社 https://www.pur-hermes.com/	愛知のプラスチック (鋳工業品)	硬質ウレタン樹脂成型品による天然木の質感を再現したウレタン擬木関連商品の製造販売。カタチと質感をそのまま再現するリアル成形品は小ロットからでも受注可能。高価な金型は必要せず、モデル型の製作から成型、塗装、仕上げまで、社内一貫生産している。	愛知県名古屋市中区十一屋 2-280番地 (本社・工場)
01-02	株式会社オカベカミコン https://okabekamikon.co.jp/	愛知のプラスチック (鋳工業品)	接着・スジ入れ加工技術を活用した一体型プラスチック製折り畳み式中仕切り製品の製造販売事業。開けばすぐ使えて、折り畳むと大きさは約1/10以下になる「カミコンシリーズ」は輸送もカンタンで、地球にも優しい。オリジナル設計のパッケージ・梱包材の制作。	愛知県瀬戸市井戸金町338 (瀬戸工場)
01-03	愛知ドビー株式会社 https://www.vermicular.jp/	鋳物 (鋳工業品・技術)	密封性を極限まで高め「無水調理」が可能な鋳物製ホーロー鍋「パーミキュラ」の製造販売事業。鍋のほかに炊飯器、フライパン、キッチンアイテムも製造販売しており、「一生サポートプログラム」は使い続ける限りメンテナンスを受けられる。中川運河沿いに体感する拠点、パーミキュラビレッジを展開。	愛知県名古屋市中川区舟戸町4 運河沿い パーミキュラ ビレッジ ダイニングエリア (レストラン、ベーカリーカフェ、シェフズテーブル) 愛知県名古屋市中川区舟戸町2 運河沿い パーミキュラ ビレッジ スタジオエリア1F (ショップ、料理教室、クックブックライブラリー、ラボラトリー、カスタマーサポートセンター、アトリエ、スタジオ)
01-04	株式会社アイチ金属 https://www.aichi-metal.co.jp/	愛知の建具 (鋳工業品・技術)	建具製造技術を活用した金属製建材部材商品の製造・販売事業。住空間の彩りとなる様々な金属加工製品のデザイン・設計・製作・施工を一貫施工。インテリアのような美しい階段や門扉など、暮らしを楽しむためのデザインが特徴。	愛知県名古屋市中千種区東山通5-20-1 サン東山公園 ウエスト1F(本社・名古屋ショールーム)
01-05	株式会社エストレージ https://estorage.jp/	愛知の木製家具 (鋳工業品・技術)	木製家具の製作図面作成ノウハウを活用した短納期・高品質の完全フルオーダー壁面収納家具等の製造・販売事業。家具の提案(プランニング)・製造・設置・アフターサービスを一括して行う、日本では珍しい業態が注目を集めている。	愛知県名古屋市中千種区東山通5-20-1 サン東山公園 ウエスト1F(本社・名古屋ショールーム) 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー14F(横浜ショールーム) 東京都中央区銀座8-11-13 IS銀座3F (東京 銀座ショールーム)
01-06	株式会社月安企画 (共同申請:合資会社赤塚染工場) http://tsukiyasu.co.jp/about/ https://akatsukasenkojo.com/	名古屋黒紋付染 (鋳工業品)	足袋の底生地に使われる木綿素材に、名古屋友禅の染色技術を活用して開発した袍類など雑貨アイテムの製造・販売事業。企画・デザイン・パターンメイキング・縫製など洋服制作業務すべてをOEMで受注しており、赤塚染工場では染体験もできる。	愛知県名古屋市中区大蔵町6番地 (赤塚染工場、染体験)
01-07	山勝染工株式会社 https://yamakatu.co.jp/	名古屋黒紋付染 (鋳工業品)	名古屋黒紋付染の染色技法を用いた服飾関連製品の製造・販売事業。その他、着物の着付け(染め、しめ抜き、そめ替え)も行っている。オンラインショップでは黒紋付の傘やTシャツ、トートバックなど個性的なデザインを販売している。	愛知県名古屋市中区西2-6-28 2階 (染替等受付)
02-01	有限会社高松園製陶所 http://www.koshoen.co.jp/	瀬戸焼 (鋳工業品)	圧力鋳込みを使用した「透かし磁器」の製造販売。瀬戸で産出される良質な陶土と高度な職人技術により他にはまねのできない磁器製品を生産しており、「陶板はがき」や「アロマフットランプ」「磁器製ノートパソコン冷却台」等、新分野での新商品の開発にも取り組んでいる。	愛知県瀬戸市西古瀬戸町2 7 (本社・工場)
02-02	株式会社中外陶園 https://chugaitoen.co.jp/	瀬戸焼 (鋳工業品・技術)	瀬戸焼の圧力鋳込み成形や接着技術を活用した小型薄物の陶製アクセサリーの製造・販売事業。招き猫や干支置物などの陶磁器ブランドの他、絵付け体験施設やミュージアムなど、焼きものに親しめる施設を運営している。	愛知県瀬戸市薬師町1番地 (体験スタジオ・ギャラリー)
02-03	株式会社セラミック・ジャパン https://ceramic-japan.co.jp/	瀬戸焼 (鋳工業品)	瀬戸焼の一部にガラスを融合させた陶磁器製品の製造販売事業。デザイナーが作り出す様々なデザインは、MoMA・パーマネントコレクションに選定されるなど国内外から高い評価を得ている。20年以上前に作られていた、焼き物の紙袋を複製した。	愛知県瀬戸市中品野町60-4 (本社・工場・ショールーム)
02-04	染付窯屋 眞窯 http://singama.jp/	瀬戸染付焼 (鋳工業品)	瀬戸染付焼の伝統技術を活かした、染付面が「無釉薬」の陶磁器製商品の開発・製造・販路開拓事業。爽やかな白と藍の瀬戸染付で、柔らかな繊細な絵柄、シンプルなデザインが魅力的。	愛知県瀬戸市中品野町330 (本社・工場)
03-01	株式会社泉屋物産店 https://www.nagaragawa.com/	郡上鮎 (農林水産物)	天然「郡上鮎」を瞬間凍結で鮮度維持し、通年供給を可能とした各種加工製品の開発及び製造・販売。オンラインショップでは鮎びざ、鮎ラーメン、仕出しの鮎弁当など様々な食品を取り扱っている。直売店では鮎コース料理が堪能でき、お土産品も販売している。	岐阜県岐阜市元浜町20 (本社・工場)
03-02	合資会社白木恒助商店 https://www.daruma-masamune.co.jp/	岐阜県の清酒 (鋳工業品)	古酒(長期熟成酒)を活用した各種リキュールの開発および製造販売。天保6年創業で、酒蔵見学+き酒付きツアー(要予約)が開催されている。オンラインショップでは厄年に贈る「躍年」や、名入れサービスも行っている。	岐阜県岐阜市門屋門(かどやかど) 61 (蔵元)
03-03	伸光製菓株式会社 https://www.sinkouseika.co.jp/	鮎菓子 (鋳工業品)	「鮎菓子」の製造技術を進化させ鮮やかな発色を可能とした鮎菓子の開発・製造。鮎菓子だけではなく、枝豆まんじゅうやきなこもちなども販売しており、長良川河畔のホテル売店、岐阜近郊の道の駅やドライブイン、岐阜駅、羽島駅、大垣駅のキヨスク売店、などでも購入することが出来る。	岐阜県岐阜市村山1 町目 6 1 番 (本社・工場)
04-01	古川紙工株式会社 (共同申請:丸重製紙企業組合) https://www.furukawashiko.com/	美濃和紙 (鋳工業品)	美濃和紙の機械抄き技術を活用したウォーターマーク全面透かし模様が全面に入ったノート、便箋、封筒、メモ帳等のステーションナリーの企画、製造、販売事業。小ロットでも受注可能で、デザイナーが手掛けるオリジナル商品は人気がある。	岐阜県美濃市常盤町2 2 9 6 (直営店)
04-02	石川紙業株式会社 https://www.ishikawa-shigyō.com/	美濃和紙 (鋳工業品)	美濃和紙の加工技術を用いた立体小物の製造・販売事業。直営の体験ショップでは起き上がりこぼしやメガネ立て、和紙ピアス・イヤリングなど作ることができる。一度に45名まで入ることができ、所要時間は30～60分。	岐阜県美濃市本住町1909-3 (美濃和紙雑貨体験ショップ石川紙業)
05-01	有限会社麺の清水屋 https://www.hidamen.net/	夏秋トマト・飛騨の夏ほうれんそう・宿難かぼちゃ(農林水産物) 高山ラーメン(鋳工業品)	「夏秋トマト」「夏ほうれんそう」「宿難かぼちゃ」を練りこんだ「高山ラーメン」飛騨高原野菜シリーズの製造販売事業。オンラインショップでは、えびそばや汁なし台湾ラーメンなど30種類以上のラーメンが購入できる。	岐阜県飛騨市神岡町殿87 (本社・工場)
05-02	飛騨海洋科学研究所 http://hidatorafugu.com/	飛騨とらふぐ (農林水産物)	飛騨とらふぐを活用した飲食メニューの提供および加工品の製造販売事業。近畿大学で生まれた稚魚を、飛騨の山の中でミネラル豊富な地下水を利用し育てたとらふぐ。押し寿司、しゅうまい、ひれ餅、などを製造販売。	岐阜県飛騨市古川町袈裟丸1775 (本社・養殖場)
06-01	長谷製陶株式会社 https://igamono.co.jp/	伊賀焼 (鋳工業品の生産に係る技術)	伊賀焼の特徴である「呼吸する土」と呼ばれる陶土や焼成技術を活かした熟練の多様化に対応する新陶製調理器具。～「温・故・値・新」シリーズへの製造・販売事業。毎年5月に陶器まつり「窯出し市」を開催している。	三重県伊賀市丸柱569 (本社・工場)

経済産業省 地域産業資源活用事業計画認定事業者一覧に掲載されている事業者から選定

No. 産地・企業	企業名・URL	地域資源	事業概要	拠点所在地
07-01	伊賀越株式会社 http://igagoe.tennengura.jp/	醤油 (鉱工業品)	天然醸造製法による海外向け醤油および醤油加工品シリーズの開発・製造・販売事業。醤油だけでなく、味噌、伊賀越漬け、佃煮も手掛けている。天然醸造のパッケージがペーパークラフトにより伊賀越忍者に変身する商品もある。	三重県伊賀市ゆめが丘7-2-1 (伊賀越 第2工場(ゆめが丘工場))
08-01	株式会社松井機業場 (共同申請：株式会社松文) https://www.matsuikigyo.com/	織物 (鉱工業品)	新しいインテリアファブリック「しけシルク」のインテリアシェード・スクリーン等の製造販売。JOHANAS -ヨハナス-は松井機業が立ち上げたブランドで、直接肌に触れるタオルや枕カバー、マスクなどをしけシルクで製造している。	富山県南砺市城端東新田3393 (本社・工場)
08-02	株式会社ヨネダ https://www.kabu-yoneda.co.jp/	かぶら寿し (鉱工業品・技術)	かぶら寿しの製法を活用した新しい発酵食品の製造・販売事業。「サバと紅芯大根の桜漬け」「紅こころ」が富山県「明日のとやまブランド」育成支援対象商品に認定される。海鮮おこわやぶり大根も手掛けており、海と山を一緒に味わえる食品が特徴となっている。	富山県南砺市荒木887-1 (本社・工場)
09-01	株式会社五万石 https://www.gomangoku.co.jp/	栗膳 (鉱工業品の生産に係る技術)	栗膳おせち料理の事業化。料亭はカウンター、個室、大広間、座敷などを備え、旬の素材を贅沢に使用し、日本料理の四季の風情を満載している。法事やお祝いの席に。仕出し弁当はネットから注文可能。	富山市桜町1-6-4 (店舗)
09-02	五洲薬品株式会社 https://www.goshu.co.jp/	富山の深層水 (鉱工業品)	「富山の深層水」を活用した機能性飲料「キレアウォーター(特定保健用食品)」、「ユトリアウォーター」の製造販売。清涼飲料水を中国、台湾、タイ、ベトナム、香港などに輸出しており、令和4年から徐々に輸出量は増えている。	富山市婦中町千里6542番 (千里工場)
09-03	有限会社桂樹舎 https://keijusha.com/	越中和紙 (鉱工業品)	伝統の八尾和紙に撥水・防汚処理を施した和紙製品(インテリア、日用雑貨)の製造・販売。紙漉き体験ではA3の和紙にいろいろなモチーフの切り紙を散らし、オリジナルの1枚を漉していく。作品はその日に持ち帰ることができ、隣接した和紙文庫は紙の展示館で入場無料。	富山県富山市八尾町鏡町668-4 (本社・工場)
09-04	株式会社OZLinks (共同申請：有限会社桂樹舎、福鶴酒造株式会社、玉旭酒造有限会社、株式会社エコロの森) https://8-base.chu.jp/8/	越中おわら、越中和紙工房、酒蔵	八尾町の地域文化資源を活用した「暮らすように旅する」体験型観光事業。一棟貸しの古民家宿泊施設を4件保有しており、その中には蔵もあり、非日常な空間を過ごすことができる。カフェやレンタルスペースとしても利用できる。	富山県富山市 八尾町上新町2701-1 (越中八尾ベースOYATSU)
10-01	株式会社福光屋 https://www.fukumitsuya.co.jp/	清酒 (鉱工業品の生産に係る技術)	清酒の醸造技術を応用した化粧品事業。実際の酒造工程を間近に見学できる。福光屋の歴史や純米造りのこだわり百年水などの紹介、純米酒の美味しさを体験することが出来る。利き酒だけのコースもある。	石川県金沢市石引二丁目8番3号 (直売店)
10-02	株式会社ヤマト醤油味噌 https://www.yamato-soysauce-miso.co.jp/	大野醤油 (鉱工業品の生産に係る技術)	ノンシュガー・ノンアルコール飲料「玄米あまざけ」の販路開拓。直営のヤマト・糀パークでは、みそボールづくり体験や料理教室が開催されており、パーク内の発酵食美人食堂では、ねかせ玄米をランチでいただくことができる。日本初の「あまざけ博士」がつくる 糀甘酒も販売している。	石川県金沢市大野町4丁目イ170 (ヤマト・糀パーク)
10-03	株式会社能作 https://nosaku1780.jp/	金沢漆器 (鉱工業品)	覆輪技法などの伝統技術を活かしつつ、3次元CGを活用し、現代の生活様式に合った金沢漆器の飾り小箱の企画製造と販路開拓事業。蒔絵体験では下絵の描かれたお盆に彩色し、金粉等を蒔く体験ができる。代用漆を使用しているのだから心配はない。4階のカフェでは漆器で甘味処をいただける。	石川県金沢市広坂1丁目1番60号 (本社・直売店・体験・カフェ)
10-04	株式会社烏骨鶏 https://www.ukokkei.co.jp/	烏骨鶏 (農林水産物)	烏骨鶏を活用した「烏骨鶏発芽玄米がゆ」の事業化。本来烏骨鶏は自然に近い環境で約2万羽飼育されている。烏骨鶏は年間30〜40個程度しか卵を産まないため希少で、ギフトや日々の健康維持の目的で全国から需要がある。	石川県金沢市西念4-22 (直営店)
10-05	株式会社箔一 https://kanazawa.hakuichi.co.jp/	金沢箔 (鉱工業品)	「金沢箔」を活用し、独自の加工技術を応用展開した食用金箔の商品開発と販路開拓。本店箔巧館では、手鏡や小物入れに箔貼りができる体験メニュー(所要時間30分〜50分)や、カフェでは金箔アイスなどを提供している。	石川県金沢市森戸2丁目1-1 (箔巧館)
10-06	株式会社花岡 https://erihana.jp/	伝統的工芸品・加賀友禅 (鉱工業品)	加賀友禅紋様をIT活用によりマンガと融合させた衣料品等の製造・販売事業。本店系り華2階「加賀お国染ミュージアム」では、加賀染織研究家 花岡慎一氏が収集した、江戸末期から昭和初期の加賀のお国染「花岡コレクション」が常設展示されている。	石川県金沢市堅町34 (本社・工場)
10-07	株式会社元湯石屋 https://www.motoyu-ishiya.jp/	加賀の伝統芸能 (観光資源)	「新能」など加賀伝統芸能を鑑賞・体験しながら秘湯深谷温泉でくつろぐ旅行企画の販路開拓。能舞台がある老舗旅館。館内には、これまで元湯石屋がコレクションしてきた美術品を多数展示しており、伝統工芸品を通じて歴史を感じることが出来る。	石川県金沢市深谷町子95 (宿)
10-08	株式会社宮商 https://ushioya.com/	ブリ、マグロ (農林水産物)	地域初の「能登天然ブリのたたき」、「能登本マグロのたたき」の商品力向上と販路拡大。ブリの他には、サーモンのたたき、金沢甘えび塩辛など北陸で取れる海鮮加工食品に力をいれている。	石川県金沢市西金沢2-168-1 (本社・工場)
10-09	有限会社シーブレン (共同申請：漆芸大下香仙工房、漆芸陽斎) https://www.cbrain.co.jp/	伝統的工芸品 (輪島塗、山中漆器、金沢箔)(鉱工業品・技術)	伝統工芸の技術を文字盤に使った「はなもっこ」をはじめとするファッション腕時計の商品開発と販路開拓。かきねシリーズは平安時代の装束の袖口などに見られる配色を参考に、岩絵具や金箔などを組み合わせて作られている。	石川県金沢市涌波1-9-5 (本社・工場)
10-10	株式会社見城亭 (共同申請：株式会社ページュ) https://www.kenrokuen.jp/	金沢の茶屋街 (観光資源)	艶やかさと雅が彩る ひがし茶屋街「懷華樓」の金沢スタイルプレミアムウエディング事業展開。世界的建築家・隈研吾氏による洗練された空間設計で金沢の工芸文化と食文化が融合した店内で食事を提供している。金沢市指定保存建物の懷華樓は、ひがし茶屋街にある茶屋建築で、夜は「一見さんお断り」一客一亭のお座敷を上げ、昼は建物のすべてを一般公開している。	石川県金沢市兼六町1-19 (店舗) 石川県金沢市東山1-14-8 (懷華樓)
10-11	株式会社金沢豆腐 https://kanazawatofu.co.jp/	加賀丸いも (農林水産物)	加賀丸いもを活用した、ふっくら食感の高級がんとどきの製造・販売事業。ひろず(がんとどき)は金沢の郷土料理で、石川県産大豆100%、つなぎは加賀丸いも、にがりは珠洲の天然塩にがりを使用しており、地下100mから組み上げた湧き水で作られている。	金沢市専光寺町271-1 (本社・工場)
10-12	有限会社薪の音 https://kanazawa.makinooto.co.jp/	加賀料理を提供する施設 (観光資源)	加賀料理を提供する施設を活用した加賀金沢の食文化等を探求するフードツーリズム宿泊プランの販売事業。ゆっくりと金沢を楽しむ美味の宿(オーベルジュ)は、4部屋限定。夕食の後に宿のオーナーがお茶屋さんにお連れし、金澤芸妓さんとお座敷遊びを楽しむプランもある(約2時間)。	石川県金沢市観音町1丁目5-8 東山のオーベルジュ 薪の音 金澤 (オーベルジュ)
10-13	株式会社ぶどうの木 https://www.budoo.co.jp/	石川米 (農林水産物)	石川県産玄米を活用した商品の開発・販売事業。豊かな自然が広がる敷地内で、「食」を通して「農」の豊かさを体感するテーマパークを運営。ぶどう棚をはじめ、イタリアンカフェ、洋菓子工房、ウエディングも受け付けている。	石川県金沢市岩出町ハ50-1 (本社・工場)
10-14	株式会社自遊花人 https://www.jiyukajin.net/	伝統的工芸品 (加賀水引細工)(鉱工業品)	伝統的工芸品「加賀水引細工」の結び技術等を活用した空間を彩るインテリア商品の製造・販売事業。令和5年4月にオープンした自遊花人水引ミュージアムではランブシェードや水引作品を展示。入館特典として隣接するショップでのお買い物20%オフになる。	石川県金沢市清川町7-9 (本社・工場)

経済産業省 地域産業資源活用事業計画認定事業者一覧に掲載されている事業者から選定

No. 産地・企業	企業名・URL	地域資源	事業概要	拠点所在地
10-15	株式会社真田製あん https://ankofoods.co.jp/	和菓子 (飴工業品)	和菓子の製あん技術を活用したあんスプレッド(新しいあんこ)の製造販売事業。保存料・合成着色料、特定原材料7品目不使用にこだわり、体に優しい甜菜糖(てんさいとう)で甘さ控えめに仕上げているのが特徴。	石川県金沢市京町24番24号 (本社・工場)
10-16	合同会社からさわ https://karasawa-inn.com/	金沢おもてなしの宿	フランス人を中心とした外国人観光客おもてなしを提供する着地型観光事業。数寄屋風旅館からさわは和室が中心で部屋から日本庭園が望める。金沢にある飲食店3カ所と提携しており、10%割引の飲食券付きプランも用意されている。	石川県金沢市藤江南1-102 (宿)
10-17	直源醤油株式会社 https://www.naogen.co.jp/	大野醤油	フリーズドライ醤油関連製品の開発および国内・海外市場での需要開拓・販売事業。工場見学を行っており「大野醤油の歴史」、生産ライン(ボトリング)を見ることができ、蔵を改装したSoy sauce & Cafe「直江屋源兵衛」で醤油のテイステイングや「醤油ソフトクリーム」を販売している。	金沢市大野町4-16 (直営店)
10-18	株式会社エイチツーオー https://h2o-d.jp/	金沢箔	伝統的工芸品「金沢箔」を独自の特許技術により機械編等のレースに貼付したラージサイズの宝飾品やファッションアイテム商品の製造・販売事業。オリジナルブランドGold-Knotは金沢の伝統工芸と欧州発祥のレース技法で仕上げたアクセサリーで、JR金沢駅に直営店がある。	石川県金沢市南町5-6 (直営店)
11-01	株式会社ウチキ https://uchiki-co.com/	山中漆器 (飴工業品)	バイオマス樹脂を活用した山中漆器の商品開発と販路開拓。漆磨(シーマ)株式会社ウチキのオリジナルブランドで山中漆器の漆塗りを燕三条の研磨技術で成型されたステンレスボディに施し漆器の新しいかたちを提案している。	石川県加賀市柏野町イ61番地6 (本社・工場)
11-02	加賀九谷陶磁器協同組合 https://kagakutani-kumiai.com/	伝統的工芸品 (九谷焼)(飴工業品)	九谷焼の技術を活用した腕時計等の商品開発と販路開拓。重鎮から若手作家まで所属する(約36名)陶磁器協同組合。色鮮やかな絵皿や燭台など百貨店などの催事に出品。	石川県加賀市山代温泉19-101-9 (本社・工場)
11-03	株式会社加賀守岡屋 https://www.moriokaya.co.jp/	堅豆腐・半堅豆腐 (飴工業品)	堅豆腐を活用した独自の焼きいりの商品開発と販路拡大。焼きいりがTV番組「マツコの知らない世界」で絶賛された。JR加賀温泉駅内のセブンイレブン(個装込み)や北陸自動車道徳光SA上り・下りでも販売している。	石川県加賀市桑原町へ17-1 (本社・工場)
11-04	有限会社よした https://www.kasyoustudio.co.jp/	伝統的工芸品 (山中漆器)(飴工業品)	当社独自の銀梨子地加工を活用した、高付加価値漆器テーブルウェアの開発と販路拡大事業。糸道具漆芸作家・吉田華正が監修する蒔絵体験教室は「じやらんnet」から予約可能。所要時間は1時間半、漆が乾燥してから後日発送。	石川県加賀市山中温泉長谷田町口360 (本社・工場)
11-05	有限会社浅田漆器工芸 https://asada-shikki.com/	伝統工芸品 (山中漆器)(飴工業品)	山中漆器の漆塗り技術を活かした商品開発と販路拡大。工房では、初めての方でも簡単にできる「天然うるしによる絵付け」が体験できる。所要時間は約40〜90分で、漆が硬化したら後日発送となる。	石川県加賀市山中温泉菅谷町ハ215 (製造販売)
11-06	株式会社竹中 https://takenaka-foodware.jp/	山中漆器 (飴工業品)	山中漆器の生産技術を活用した、海外市場向け弁当箱「TAKENAKA BENTOBOX」の製造・販売事業。伝統的な漆器の技法を使い現代のスタイルに合わせたモダンで飽きのこないランチボックスをはじめ、KIDS DISH ランチプレートなど様々な食器を製造販売している。	石川県加賀市山中温泉上原町ワ562 (工場)
11-07	株式会社我戸幹男商店 (共同申請：宮常工房) https://www.gatomikio.jp/	山中漆器 (飴工業品)	伝統技法である加飾挽きを施したデザイン漆器の製造販売事業。代々受け継いできた山中漆器の伝統を踏まえ、現代の暮らしに馴染むデザイン、木の温かみと手触りは日々の生活に彩りを与えてくれる逸品。	石川県加賀市山中温泉こおろぎ町ニ3-7 (直売店)
11-08	守田漆器株式会社 https://urusi.jp/	伝統的工芸品 (山中漆器)(飴工業品)	山中漆器の技術を活用した天然木製照明器具の試作開発・販売事業。ベテランの職人や若い世代の職人たちの力が発揮出来る環境を提供し、職人の伝統技術の継承に力を入れている。漆器の修復を受け付けており、日本人のものを大切にする精神を大切にしている。	石川県加賀市山中温泉上原町ワ528 (本社・工場)
11-09	鹿野酒造株式会社 https://jokigen.co.jp/	清酒	山廃仕込み5年熟成の製法による、洋食に適した新たな清酒の海外市場における需要開拓事業。「人、米、水へのこだわり」、「常きげん」という名に込められた思いを大切に酒造りをしている。山廃仕込みのお酒を得意とし、濃厚な飲み口と鋭い切れ味は、地酒ファンが多い。	石川県加賀市八日市町イ6 (蔵元・販売)
11-10	有限会社畑漆器店 https://www.hatashikki.jp/	伝統的工芸品 (山中漆器)	山中漆器の生産技術を活用したユニバーサル食器「col.ブランド」の開発・改良。および販売事業。オリジナルブランドcol.と卯之松堂の2つのブランドを展開する。漆器だけではなく、木地の質感をそのまま活かした木製品の製造販売も行い、代々受け継がれてきた伝統を守りながら、新たな可能性を探している。	石川県加賀市山中温泉上原町ヨ395 (本社・工場)

経済産業省 地域商業機能複合化推進事業の採択地域より選定

商店街名

多治見本町オリベストリート(岐阜県多治見市)

商店街の概要

美濃焼のひとつである織部で有名な岐阜県多治見市本町エリアは、明治期から昭和に建てられた商家や蔵が残っており、約400mにわたる通りは、陶都創造館を中心に、歩きながら「まち」と「産業」を楽しめるまちづくりを推進している。「かまや多治見」は歴史ある三軒長屋をリノベーションした施設で、日々の生活を豊かにする品々を扱う店舗が集っている。美濃焼をはじめとする様々な作品を通じて、市民が日常的に楽しみ、その魅力を愛陶家や一般の観光客も楽しみながら、交流と活気の輪を拡げる取組みを展開。地域経済の活性化だけでなく、多治見市の文化や歴史の保存にも寄与している。

特徴ある取組

「パンと器と2024めぐるMAP」では、本町オリベストリートはもちろん、多治見駅周辺や、ながせ商店街など市内各所で楽しめる場所を紹介している。



商店街名

大須商店街(愛知県名古屋市中区)

商店街の概要

大須商店街は名古屋市中区を代表する繁華街および商店街の一つで、かつては日本三大電気街としても知られる。最近では電器街のブランドを活かして、eスポーツ体験スペースの設置試行とAIビーコンを活用した人流や属性把握を通じて、従来からの、パソコンやモバイル、電子デバイス目的の客層や、アパレルやリユースショップ目的の客層と相乗効果が見込めることを特定。これまでの歴史的背景による客層を大事にしながら、eスポーツと既存ジャンルの相乗効果、加えて新しいテナントミックスにより、次世代に向けた客層の獲得と固定化に各商店会が連携し面的に取り組んでいる。

特徴ある取組

インバウンド向けに多国語版商店街マップ作成やキャッシュレス決済の導入しており、大須観音、万松寺では外国人向けのイベントを企画している。レンタル浴衣やアニメ、コスプレなどでも需要を取り込んでいる。



商店街名

円頓寺商店街(愛知県名古屋市中区)

商店街の概要

円頓寺商店街は名古屋駅の近くにある商店街で、古き良き下町情緒と新しい文化が融合した魅力ある場所として、リアルとオンラインの融合により新しい楽しみを提供している。2007年から空き家対策とまちの活性化の取組みによる段階的な成果を生みながら、伝統的な「円頓寺七夕まつり」やフリーマーケット「ごえん市」、パリのマルシェさながらにおしゃれな雑貨やお菓子、カフェ、ビストロなどの露店が並ぶ「パリ祭」など、地域の魅力を高めるアナログな活動を地道に行っている。並行して、立地店舗の店主や周辺マンションの増加による新たな客層をキャッチするため、様々なデータをビジネスの改善や街の回遊促進に役立てるデータ取得環境と「AIラボ」の設立による研究活動を開始しています。これらの取り組みは、円頓寺商店街を名古屋の中心部における歴史文化のおよび商業的にも魅力あるスポットとして再確立していくことにもつながっている。

特徴ある取組

円頓寺商店街は、商店街全体のアプリを製作運用している。マイレージプログラムでポイントをためて商店街で使える金券や景品に交換ができ、キャッシュレス決済や生活スタイルの変化に柔軟に対応する施策を行っている。



「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」として選定された拠点

IGアリーナ（愛知県名古屋市）

URL： <https://ig-arena.jp/>

住所：愛知県名古屋市北区名城1丁目2

名城公園に浮かびあがる新しいシンボル

2025年夏にオープン予定のIGアリーナは、世界に誇る名古屋城に隣接する名城公園に新しいシンボルとして誕生する。

メインアリーナは最大収容人数17,000人（立ち見含む）は国内最大級。スポーツ観戦に適したオーバル(楕円)型と、音楽ライブなどに適した馬蹄型を組み合わせたハイブリッドオーバル型を導入し、スポーツ・音楽のハイブリッドエンターテインメントアリーナとして、愛知から世界へ様々なプロジェクトを発信していく。「スマートアリーナ」を掲げ、安全でアクセシブルな動線設計やキャッシュレスやモバイルオーダーなどを実装し、外観と内装の一部は隈研吾建築都市設計事務所が手掛けるデザインで自然との一体感を生み出し、名城公園に浮かびあがる新しいシンボルとなる。

中部エリアはもとより、首都圏・関西、さらにはアジア圏からも中部国際空港の利用により、国内外からの旅行者の往来が期待できる。



©Aichi International Arena Co.,Ltd.
画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。

三河安城交流拠点（アリーナ）（愛知県安城市）

URL： https://go-seahorses.jp/lp/new_arena/team_mikawa

住所：愛知県安城市三河安城町1丁目11番地2

新しいまちの未来をつくる、みんなのアリーナ

2026年、愛知県安城市に三河安城交流拠点（アリーナ）が誕生する予定。「三河安城駅周辺のまちづくり」の想いに共感してプロジェクトされた、三河安城交流拠点は、三河安城を中心とした西三河全域の賑わい創出や、将来に渡るまちづくりに貢献する。バスケットボールチームの「シーホース三河」のホームアリーナとして使用するとともに、地域の賑わい創出のための活用や一般への貸出も計画されている。自在に入れ替えが可能な外周部分は、店舗、交流の場としての利用も可能なため、多種多様なイベントの受け皿となる。スポーツ観戦施設だけではなく、地域の人々の手によって発展するコミュニティアリーナになることが期待されている。



完成予想図(アリーナの外観等に変更になる可能性があります)